

通し番号	5040
------	------

分類番号	R02-03-34-01
------	--------------

定置網の被害状況の把握手法の確立について
[要約] 近年、大型化する台風が強い勢力を保ったまま関東周辺へ接近することが増加し、波浪や急潮による被害が発生している。そこで、今後の台風への被害防止に役立てるため、まずは台風被害情報を収集する方法の検討を行った。ドローンと漁業者への被害状況聞き取りの二つの調査から、情報収集方法を作成・整理し、被害状況の把握手法を確立した。ドローン調査では漁場全体の俯瞰写真、垣網と身網の動画をセットで情報収集することとした。また、被害状況の聞き取りマニュアルを使った調査で、漁場毎の被害の特徴がわかる可能性が見えたことから、被害状況の把握に有用な手段として今後の運用が期待される。
神奈川県水産技術センター・相模湾試験場 連絡先0465-23-8531

[背景・ねらい]

近年、台風が大型化するとともに、強い勢力を保ったまま関東周辺へ接近することが増加し、波浪や急潮によって被害が発生するようになってきている。これまで、漁業者は網抜き等の現場対応をしてきたが、今後もこれまでと同じ対応で被害を防げるかは不透明な状況となってきた。そこで、今後の台風来襲時の被害防止に役立てるため、どのような台風被害を受けているかを把握するための手法について検討した。具体的には、ドローン調査による漁場の状況確認と、被害を受けた漁業者への聞き取りを行うためのマニュアルを作成した。

[成果の内容・特徴]

- 1 ドローン調査により、各漁場における定置網の全体像と各部の詳細について映像情報を収集できるようになった。
- 2 ドローン調査では、各漁場において収集する情報が一定となるよう、一つの漁場で①定置網の全体俯瞰図、②垣網と身網の動画の2つを基本情報として撮影することとした。
- 3 各漁場が被害を受けた時にその規模が分かるよう、被災時だけではなく、平常時の漁場についても情報を取得し、比較できるようにした。
- 4 漁業者からの被害状況の聞き取りマニュアルを作成し、漁業者から具体的な被害状況や損傷箇所を聞き取れる様式を用意した。

[成果の活用面・留意点]

- 1 ドローン調査により、各漁場に関する映像情報を収集することができた。
- 2 ドローン調査で得られたデータが、一部の漁協で定置網の被災に関する損失申請の証明書類として活用され、試験用途以外にも利用された。
- 3 被害の聞き取りマニュアルを使って各漁業者に直接話を聞き、被害箇所を書き入れてもらった結果、これまでの被害リストでは見えなかった情報が見えてきた。そのため、今後は漁場毎に被害の傾向が見える可能性もあり、大変有用な手段となりえるだけでなく、蓄積した情報によって漁業者自らが防災の判断や行動を起こせる材料になりえる。
- 4 汎用的なマニュアルを作成したことにより、誰が情報収集しても一貫性のある情報を得られるようになった。
- 5 被害の聞き取りマニュアルは、台風の来襲の関係で1年間しか運用できていないため、

今後必要に応じて改変していく。

[具体的データ]



図1 定置網全体の俯瞰写真



図2 破損した定置網の垣網部

- 当日の潮の向き、波の高さ、風など
 - 被害の主な要因と思われるもの
強い流れ・波・その他()
 - 事前に撤去してあった箇所 (図面書き込み)
 - 被害の箇所 (図面書き込み)
・最初に破損したと思われる箇所
 - 被害に遭ってしまった原因 (気づいたときには船が出せなかった、
これまでにない気候パターンだった、など)
 - 今回の被害で気づいたこと (浮網が中心にやられていた、簡網の
破網が目立ったなど)
 - 被害があった箇所の資材の使用年数
 - その他
- ※参考に、想定被害金額、休漁せざるを得なかった日数

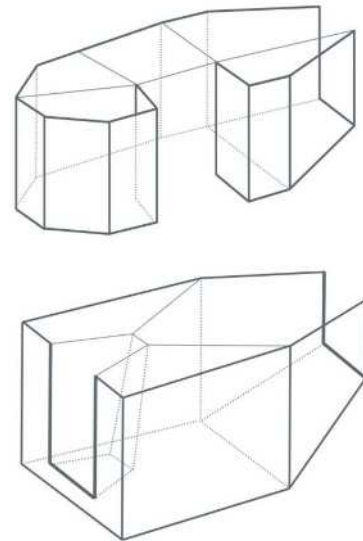


図3 被害聞き取りマニュアル

[資料名] 令和2年度水産技術センター業務報告
[研究課題名] 定置網防災技術開発試験
[研究期間] 平成28年度～令和2年度
[研究者担当名] 田村怜子

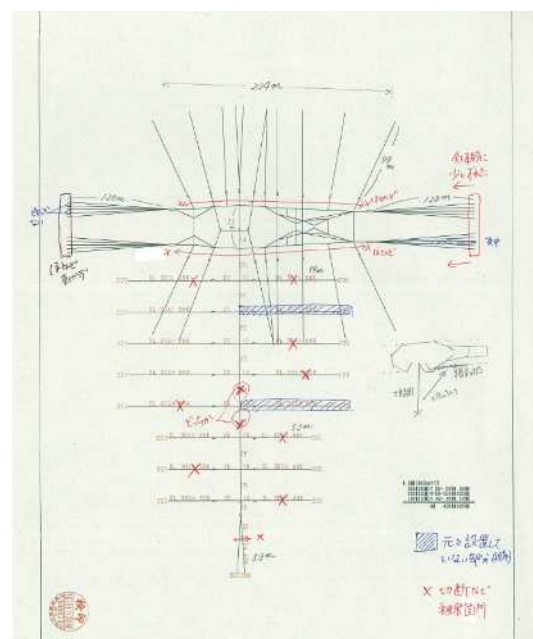


図4 漁業者による被害状況書き入れ